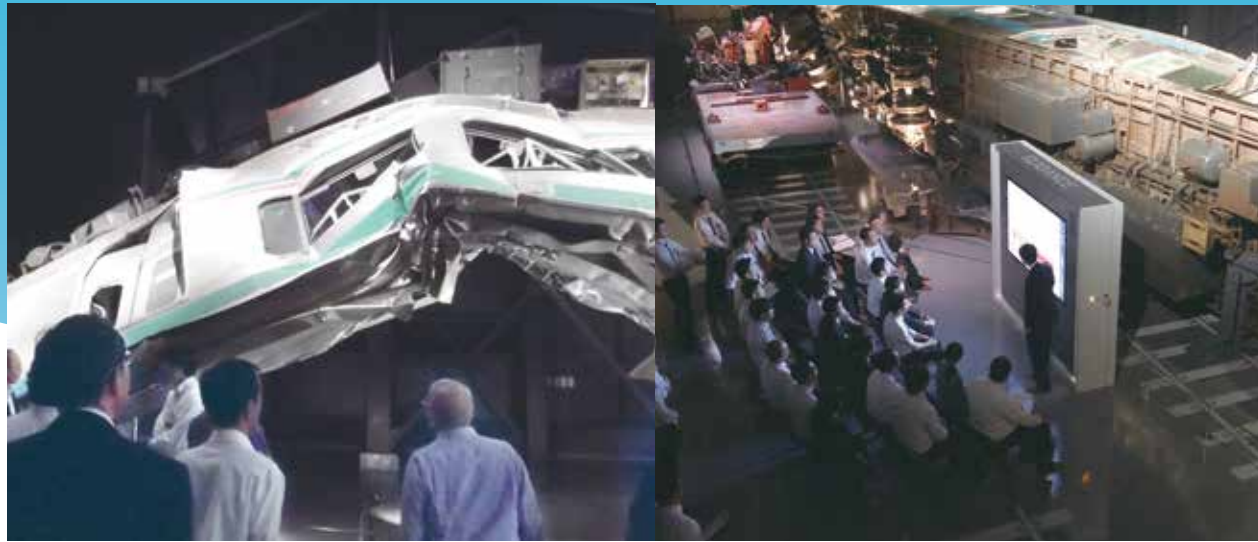


「事故の歴史展示館」の拡充



事故の歴史展示館内部

私たちが目指すこと



JR東日本グループでは、一人ひとりが環境変化に的確に対応して「安全行動」を実践する人材の育成を推進しています。

「事故の歴史展示館」を活用して「過去の事故を教訓化する」取組みを推進し、一人ひとりがより一層自ら学び行動できる環境整備を行うことで、お客さまの死傷事故ゼロ、社員の死亡事故ゼロという「究極の安全」を実現していきます。

「事故の歴史展示館」の活用方針

鉄道の安全を確保するための設備や仕組み、ルールは机上だけでできあがったものではなく、過去に起きた事故の経験や反省に立って積み上げられてきたものです。

このような問題意識のもと、2002年にJR東日本総合研修センター内に「事故の歴史展示館」を設置しました。

2014年4月には、「事故の教訓を学び、事故の恐ろしさを胸に刻み、具体的な行動につなげる取組み」を推進する目的で事故等の実物車両を展示した「事故の歴史展示館（車両保存館）」を開設し、協力会社・グループ会社も含めた全社員が訪問するよう取り組んでいます。

「事故から学ぶ」「事故から感じる」「安全を心に刻む」という方針のもと、「安全システムの歴史や作業ルールが決まった経緯」「事故防止の考え方」「お客さま等の命を守ることの重要性」等について、座学と合わせて学ぶことで、JR東日本グループの社員一人ひとりの「安全行動」につなげていきます。



開館当時から設置している「事故の歴史展示館」入口の実物の展示

より深く「仕事の本質」や過去の事故の教訓を学ぶために

過去の事故を忘れることなく、より深く過去の事故の教訓を学ぶことをめざして、2018年10月に「事故の歴史展示館」を拡充するとともに、2014年に発生した京浜東北線川崎駅構内列車脱線事故の事故車両を保存し、列車脱線事故をさまざまな視点から考察することを目的に「事故の歴史展示館（考察館）」を開設しました。

デジタルサイネージや当時の実記録、事故の実物車両等を展示することで、より深く「仕事の本質」や過去の事故の教訓を学び、「安全行動」を実践する人材の育成を推進していきます。



デジタルサイネージを活用した教育

当時の実物の資料の展示

事故の実物車両による教育

VOICE

「事故の歴史展示館」の開設に携わり「安全行動」を実践する人材育成を推進する



東日本旅客鉄道(株)
大宮支社 小山保線技術センター
杉本 大輔

私は、2018年10月に行った「事故の歴史展示館」の大規模な拡充プロジェクトを担当しました。

鉄道の長い歴史の中では、数々の痛ましい事故が発生しています。そのたびに二度と同じような事故を発生させないために、先人の方が悩み、考えぬいてできたのが、今の安全に関するルールや設備なのだとすることを、今回の拡充プロジェクトを通して自分自身深く理解しました。

今後はJR東日本総合研修センターの講師と連携しながら、社員一人ひとりが身近にあるルールや設備の成り立ち、またそこに込められた先人の想いを理解した上で業務に取り組めるよう、事故の歴史展示館を活用した安全教育を充実させていきます。

安全教育を通じて「究極の安全」を追求する



(株)JR東日本パーソネルサービス
若井 修

私はJR東日本総合研修センターの講師として、安全教育に携わりました。

事故の歴史展示館には多くのJR東日本社員グループの社員が学びに来ますが、その際に、講師として必ず伝えていることがあります。

「事故の怖さ・悲惨さ・命の大切さ」を感じ、「安全とは何か」を考え、「二度と事故を起こさないという決意を持つこと」と、「事故の歴史展示館で学んで自職場に戻ったのち、職場にある事故の芽に気づき、芽のうちに摘むこと」です。

鉄道の運行は常に危険と隣り合わせです。安全は鉄道に従事する者一人ひとりが、手を抜かず真剣に業務に取り組み、創り上げていくしかありません。私たち講師も事故の歴史展示館で事故と真剣に向き合い、訪れた人やその周りの人に事故を起こさない・起こさせないように、しっかりと思いを伝え、「究極の安全」を追求していきます。